



人は時として合理的でない行動をとります。そうした生身の人間を前提とした経済学が行動経済学です。経済学者の真壁昭夫先生が皆さんを行動経済学の世界にご案内します。

心の経済学

行動経済学へのいざない

最近、経済の専門家や一般の人々から注目を集めている経済学の分野の一つに、行動経済学があります。この理論は人間の「心」の動きに着目して組み立てられているため、行動経済学「心」の経済学と考えると分かりやすいと思います。行動経済学に関する業績は、すでにノーベル経済学賞を2回受賞しています。

伝統的な経済学では、人間は常に機械のように合理的に行動することが前提になっています。しかし、実際の私たちの行動を振り返ると、バーゲンセールに行つて値下げ品以外のものも買ってしまふなど、時折「おかしなことをしてしまった」と後悔することがあると思います。つまり、生身の人間は常に合理的に行動するとは限らないということです。

ときには合理的ではない「心」を持った生身の人間を前提にして経済活動を考え直そう、というのが行動経済学なのです。その行動経済学の内容を、できるだけ分かりやすく解説したいと思います。行動経済学の考え方は、きっと私たちの日常生活にも役立つことがあると思います。

1 心の経済学とは

私たちが日常生活の中でお金を使ったり、預金したりするときなど、自分たちの「心（心理）」に影響されて決める（＝意思決定を行う）ことが多いと思います。このときの意思決定は常に合理的とは限りません。例えば、飛行機が墜落したというニュース

真壁 昭夫（まかべ あきお）

経済学者。信州大学経済学部教授。1953年生まれ。76年一橋大学商学部卒と同時に第一勧業銀行に入行、83年ロンドン大学経営学部大学院（修士）卒業、85年メリル・リンチ社ニューヨーク本社出向。DKB INT'L出向・トレーディング部長。市場営業部および資金証券部の各市場営業グループ次長を経て98年第一勧銀総合研究所金融市場調査部長。その後、内閣府経済動向分析チームメンバー、第一勧銀総研やみずほ総研の主席研究員を経て2003年から信州大学大学院イノベーション・マネジメント・センター特任教授兼任、05年から同大学経済学部教授。著書は「日本がギリシャになる日」（ビジネス社）、「行動経済学入門」（ダイヤモンド社）、「実践 行動ファイナンス入門」（アスキー新書）、「下流にならない生き方」（講談社）など多数。

を見ると、どうしても飛行機に乗って出張に行くことがいやになることもあるでしょう。例えば事故原因が自分の乗る飛行機に関係ないことが明らかな場合であっても、どうしても気分的に飛行機に乗りたくなくなるのが人間の心理です。

行動経済学はそうした人間の「心」の動きをとらえて、どのような経済活動が起きるかを考えます。そうした考え方は、「人間は常に合理的な判断を下す」（安全性が変わらなければ便利な飛行機に乗る）と想定した伝統的な経済学の発想と対照的です。行動経済学が登場した背景を噛み砕いて整理すると、以下ようになります。

① 私たちの行動は「心」に左右される

私たちは、各人の思考や習慣、文化等に影響されながら消費や生産を行います。そのため、私たちの経済活動には各人の主観や好み、プライドといった「心理的な要因」が大きな影響を与える可能性があります。

② 「心」の影響で合理的でない行動をとることがある

「心」の影響で、私たちは時としておかしな判断をすることがあります。前にあげた飛行機事故の例などは、そうしたケースの一つといえるでしょう。そうした「気分的に何かをしてしまう」、あるいは「正しいと分かっているにもかかわらずする気になれない」などということはよくあると思います。

③ 「心」に着目した経済の理論が必要

私たちの日ごろの行動が「心」に影響され、それが時として合理的な意思決定ではないとすれば、伝統的な経済学とは別に、「心」に着目した経済学の理論でないと、実際の経済を理解することができません。そのため実際の経済を、より実態に近づけて分析することを目的として行動経済学が考え出されました。

2 伝統的な経済学との違い

ここまでで、行動経済学について大づかみイメージを持つていただけたのではないかと思います。そこで、行動経済学をもう少し深く理解するために、今までの伝統的な経済学との対比を考えてみましょう。両者の主な特徴をまとめると、下の表のようになります。

伝統的な経済学は、基本的に「機械のように常に合理的な人間」を前提としているため、「こうあるべきだ」あるいは「こうならなければならない」という厳格な理屈になっています。また、消費者の好みといった「心」の要素にとらわれず、経済活動に関する分析をすることはそれなりに有効な考え方だと思えます。「一定の条件の下で経済がこうなるだろう」という推測を行いやすくなります。

ただ、伝統的な経済学では一定の前提を設け

てしまうため、それに適合しない出来事などは「例外的事象」アノマリー (anomaly) として十分な説明がなされてきませんでした。アノマリーとは、ごくごく例外的に起きる出来事で、理屈で説明することが難しい事象のことを意味します。伝統的な経済学が説明をしなかった出来事の中に、いわゆる「バブル」があります。

バブルとは、人々の心理が高揚して、「買うから

	行動経済学	伝統的な経済学
前提・対象とする人間像	生身の人間（時として、市場は効率的ではなく、意思決定も合理的とは限らない）	市場は効率的であり、意思決定も合理的
経済活動に対する考え方	常に合理的とは限らない（時としておかしな決定も下す）	企業や家計は経済合理性に従って意思決定を行う
金融市場に対する考え方	バブルの発生を想定する	バブルなどの例外的事象（アノマリー）は想定しない
理論構築の特徴	行動理論（実際の私たちの行動を基に理論を構築）	規範理論（理論的にあるべき姿を前提に理論を構築）
対象とする期間	相対的に短期間	相対的に長期間

上がる。上がるから買う」という現象が起きて、株
価や不動産などの価格がとんでもない水準まで上
昇してしまうことです。わが国でも1980年代
後半、株式と不動産の価格が3、4年の短期間で驚
くような水準まで上がってしまいました。その記憶
はまだ鮮明に残っていると思います。そのバブルは、
私たちの生活にとっても大きな影響を与えました。株
式などの価格が上がっている間は景気が改善します
から、物が売れて、私たちのお給料も上がります。
その時はとても快適なのですが、バブルが破裂した
後は、不良債権の処理や企業のリストラ圧力が高
まることとなります。実際、1990年代後半から、
わが国の経済が長期低迷を続けたことで、私たちの
生活は厳しい状況に置かれました。

バブルのような出来事に関しても経済学で明確な
説明ができると、そうした事態にならないような対
策を打つことが可能になるはずですが、行動経済学は
より実際に近い状況を前提にしているため、伝統的
な経済学の理論では説明できなかった事象について
も、それなりの説明をつけることができるようになって
います。それも行動経済学の重要なメリットの一
つと言えるでしょう。

3 フレーミング効果、 「思い込み」の力

次に、行動経済学をより深く理解するために、
代表的な理論であるフレーミング効果を紹介しまし

「フレーミングとは、簡単に言うると一種の『固定観念』
あるいは『思い込み』と考えると分かりやすいと思
います。ここで、人間の言葉に対する感じ方について、
例をあげて説明します。例えば、「水筒に、まだ一口
分、水が残っている」という場合と「もう一口分しか、
水が残っていない」という場合とでは、印象はどう
変わるでしょうか。二つの言葉の情報の内容は同じ
ですが、後者の伝え方であれば聞き手の心理は悲観
的なものになってしまうかもしれません。

フレーミング効果の『フレーム』とは、『枠組み』
のことです。主観などの影響で認識の枠組みが固定
されてしまうと、なかなかそれを修正することは容
易ではありません。

実際の例として、バーゲンセールに殺到するケー
スを考えてみましょう。バーゲンセールのフレーミ
ング効果としては、『バーゲンセール』普段は高いも
のが安く手に入る『』という『思い込み』（心理の枠
組み）が考えられます。そのため「バーゲンセール
に行かないことは損することと同じ」といった『思
い込み』が形成され、大勢が殺到すると考えられ
ます。

これを百貨店の側から考えましょう。バーゲン
セールは安売りというフレーミング効果を活用する
ためには、消費者に得をしたと思わせる仕掛けが重
要です。このため、百貨店は『赤字覚悟』など、安
売りを強調する文言を並べます。また、通常は定
価でしか販売しない高級ブランド品などをセールの

目玉に設け、より多くの集客を達成し、全体の売
り上げを伸ばそうとするのです。

4 行動経済学は世の中を 知るためにも役に立つ

フレーミング効果という代表的な行動経済学の理
論を理解するだけでも、日ごろの意思決定の背景に
ある『心』の動きの意味がよく理解できると思います。

現在、わが国では、デフレ経済からの脱却が強力
に推し進められています。デフレ経済を考える際に
も、『心』の動きを考慮することはとても意味のある
ことだと思えます。つい最近まで、「バブル崩壊後、
経済は低迷し、何をやっても給料は増えない」という、
一種のフレーミング効果が社会の中で重要な影響を
与えていたと考えられます。そうした人々の心理が、
経済活動を低下させる要因になっていたかもしれま
せん。

ということは、経済を回復させるためには、何よ
りも人々の心理状況を改善することが必要という
こととなります。足元のわが国の経済活動を見る
と、労働市場や所得環境が改善していることもあり、
人々の心理状況は少しずつ改善しているように見え
ます。重要なポイントは、人々の『思い込み』など
の『心』の影響をいかに改善に向けて行うことができ
かということになります。こうした視点を理解する
うえでも、行動経済学について知っておくことは役
に立つのです。